

---

# 地域公共交通の目指すべき将来像

## (4つの地域区分共通の将来像)

## 視点1 多様な主体の参画による公共交通の維持・充実

### 1 公共交通の利用促進

- 地域公共交通を皆で支える意識が浸透し、行政、交通事業者、都民等が各々の役割を果たすことで、公共交通の利用が促進され、持続可能性が向上している

### 2 都民自らがデザインする地域公共交通

- 地域の関係者が自らがデザインする意識のもと、地域公共交通計画等の交通マスタープランの策定が進むとともに、需要の増減や広域インフラの新規整備等の状況の変化に柔軟に対応し、常に最適な対応策の検討・実施を志向する好循環の仕組みが機能している

### 3 最新技術の積極活用

- 技術革新が著しいCASEやAIなどの先端技術の積極的な活用により、交通分野における課題の解消等が進み、都民生活や都市活動の向上に寄与している。また、交通事業者間はもとより、都民生活に関わる広範な分野間のデータ連携に基づくMaaSが広域で実装され、都民が状況に即した最適な交通行動を選択できる社会が実現するとともに、移動の高付加価値化により、都民のQOLが向上している

## 視点1 多様な主体の参画による公共交通の維持・充実

### 4 多様な主体の参画

- 企業の送迎バスやスクールバスなどの既存の輸送資源を効果的に活用する枠組みが確立されているとともに、町会・自治会等による自家用有償旅客輸送の実施など、行政や交通事業者以外の様々な主体による取組が広く普及し、活用されている

### 5 新たな事業スキームの確立・浸透

- 商業施設等が密度高く立地する都の強みを活かし、広告料、協賛金、会費といった運賃以外の収入を財源に充てる、新たな事業スキームが広く浸透し、財政的にも安定した地域公共交通の運行が各地で導入されている

### 6 担い手の安定的な確保

- 運転職種の魅力向上策はもとより、路線の再編による運行の効率化や自動運転技術の積極的な活用等あらゆる手立てを講じることで、必要な担い手が確保され、交通事業者が安定的に事業運営できる環境が整っている

## 視点2 環境と人に優しい地域公共交通

### 1 環境負荷の低減

- 自家用乗用車から公共交通への転換促進による交通渋滞の解消や車両のZEV化の推進等により、**運輸部門における環境負荷が著しく低減**している

### 2 外出を促す移動手段の選択肢の拡充

- グリーンスローモビリティやシニアカー等の既存のモビリティに加え、先端技術を活用した新たなモビリティの普及拡大により、**ファースト/ラストワンマイルを補完する移動手段の選択肢が格段に増えて**おり、高齢者等の豊かで健康的な日常生活の礎となっている

### 3 多様なモビリティが安全に走行できる空間の確保

- 自動運転技術の実装等の社会情勢に応じた**道路空間のリメイク**により、賑わい・交流を育む場の創出とともに、多様なモビリティが**安全に走行できる通行空間が連続的に確保**されている

### 4 安心して運転免許が返納できる社会の実現

- 充実した地域公共交通ネットワークのもと、その存在が社会的に認知され、**誰もが安心して運転免許を返納できる社会**が構築されている

## 視点3 まちづくりとの連携

### 1 集約型地域構造への再編の加速

- 立地適正化計画等のまちづくり政策と地域公共交通計画等の交通政策とが一体的に展開され、集約型地域構造への再編に向けた取組が加速している

### 2 行政界を意識しないシームレスな移動の実現

- 関係する複数自治体の協働による地域公共交通計画の策定など、相互に連携して広域的な交通課題に取り組むプラットフォームが整備され、利用者が行政界を意識することのない、シームレスな移動が実現している  
(交通不便地域の効率的な解消、多摩広域拠点域における南北移動・リニア橋本駅を契機とし、高水準な都市インフラを活かした多摩NTエリアの再生等)

### 3 交通結節機能の充実

- 都市開発等の機会を確実に捉え、多様な交通モード間の乗継利便性を高めるとともに、都民の交流の場としても機能する交通結節施設等の計画的な整備が促進されている

### 4 多様な他分野との連携等による移動需要の創造

- 地域公共交通のクロスセクター効果が広く認知され、医療・福祉、観光、教育など、都民生活を支える様々な分野との連携のもと、公共交通マーケティングの観点から、都民の新たな移動需要が創出され、移動トリップが増大している